

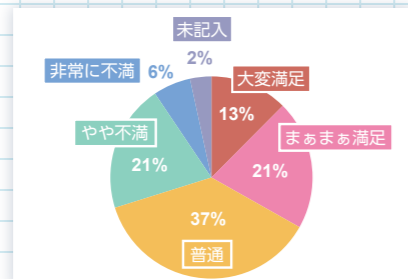
患者満足度調査の結果報告

サービス向上委員会では毎年10月に「患者満足度調査」を実施しております。今年も外来・入院を合わせて380名の方に調査にご協力頂きました。

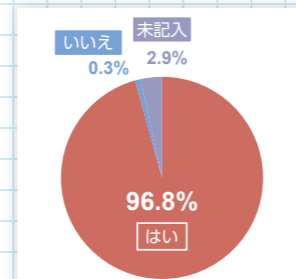
その結果、「職員の接遇」や「安全への配慮」の満足度は高い評価を頂きました。満足度が最も低かったのは、毎回課題としている会計での待ち時間でした。今後は、電子カルテの導入や人材確保、自動精算機の活用促進などで待ち時間短縮に取り組んで参ります。また、施設の老朽化や患者呼び出しにおけるプライバシーに関する満足度も低く、まだまだ改善に向け取り組まなければならないことが多くあります。

それでも、当院を利用して頂いている患者さんの96.8%の方が「今後も吉田総合病院を利用したい」と回答して頂きました。これは当院が地域で唯一の総合病院であり、なくてはならない病院であるということに他なりません。このことを心にとめて、「吉田病院に来てよかった」と言って頂けるよう職員一同一生懸命取り組んで参ります。

待ち時間の満足度



今後も吉田病院を利用したいですか？



やさしい心で
良質な医療を

春号

vol.84

JA吉田総合病院

発行/広島県厚生農業協同組合連合会 吉田総合病院
〒731-0595 広島県安芸高田市吉田町吉田3666
Tel.0826-42-0636 Fax.0826-47-0007
2026年(令和8年)2月発行
https://yoshida-gene-hospi.jp

看護部長あいさつ

看護部長 水山 志保



日頃より、当院をご利用いただいている地域の皆様、ならびに関係機関の皆様には看護部に対して多大なるご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

令和7年10月1日より看護部長に就任いたしました水山志保と申します。どうぞよろしくお願いいたします。地域の基幹病院である当院の看護部長の重責を担うこととなり、身が引き締まる思いです。微力ではございますが、皆様のお力添えを頂き、職務に精励する所存です。

医療を取り巻く環境は大きな転換期を迎えています。少子高齢社会の進行により、医療や介護といったケアを必要とする人が増えていることはいうまでもありません。病院は治療の場であると同時に、住み慣れた地域でその人らしく生活することを支える役割が求められています。

当院は、これまで4つの病棟で入院患者さんを受け入れておりましたが、令和8年1月から、地域包括ケア病棟が減り、病棟が3つになりました。そのため、治療を終えた患者さんが長く入院することが難しくなっています。患者さんやご家族は、退院後の生活に対する不安を感じられることもあるかと思えます。不安を解消し、安心して自宅や地域での生活に戻っていただくことこそが、私たちの重要な使命であると考えています。患者さんが入院された時から、あるいは入院前の外来の段階から、退院後の生活を見据えた支援を始め、円滑に自宅や施設に戻れるよう取り組んでいます。地域の医療機関の先生、地域のケアマネジャーや訪問看護ステーション、介護・福祉施設の方々と連携を密にし、病院から地域へと看護をつないでいきたいと考えております。

また、看護師が積極的に地域に出向いていき、施設等において、健康維持や疾病予防、院内で実践しているケアなどの研修会を推進します。この活動を通し、情報共有の質を高め、病院と施設・在宅との間で、さらに一貫したケアが提供できると考えます。地域の皆様と顔の見える関係を築き、頼りにされる存在となれることを目指してまいります。

看護師が笑顔で働き続けられる環境を整え、地域の皆様から信頼され、選んでいただける病院になるよう努力する所存です。今後とも温かいご支援を宜しくお願いいたします。

正職員・パート

スキルを活かして
一緒にやりがいのある仕事を♪

吉田総合病院

看護師さん募集

勤務時間

相談に応じます

日勤 8:30 ~ 17:00

夜勤(病棟) 16:30 ~ 1:00
0:30 ~ 9:00

夜勤(外来) 16:45 ~ 8:45

待遇他

- ・通勤手当支給
- ・賞与(年2回)
- ・年次有給休暇
- ・年間休日122日(R6年度実績)
- ・職員駐車場
- ・看護師寮(5年間家賃無料)
- ・その他 慶弔見舞 など

お問い合わせ

ご不明な点はお気軽に
お問い合わせください

〒731-0595
安芸高田市吉田町吉田3666
吉田総合病院 人事課
TEL 0826-42-0636

許可病床数 237床

一般病床	111床
地域包括ケア	80床
療養病床	46床

- ・救急告示病院
- ・労災指定病院
- ・へき地医療拠点病院
- ・居宅介護支援事業所
- ・在宅介護支援センター
- ・日本医療機能評価機構認定病院(3rdG:Ver2.0)

求人案内の詳細は
こちらから▼



広島県厚生農業協同組合連合会 吉田総合病院

採血管準備システムの導入について

外来師長 西本 小夜

令和7年12月16日から中央処置室に採血管を準備するシステム(BC-ロボ)を導入しました。中央処置室は、外来受診に来られた患者さんの採血・注射・点滴・外来手術の準備・導尿など様々な処置を行っています。1日の患者数は、90名～150名の方が利用されています。

システム導入前は、患者さんに案内票のファイルと共に採血管を中央処置室に持って来て頂き大変、ご負担をおかけしていましたが、現在は中央処置室で採血管を準備できるようになりました。検尿コップは、今まで通り各診療科でお渡しますのご安心下さい。また、中央処置室に採血に来られた際は、今まで通り案内票のファイルを窓口のカゴに入れて頂きます。その後、来られた順に案内票のバーコードを読み取り、BC-ロボが採血管を準備します。特殊な採血管は、ロボでは準備できないため誤認防止に努めスタッフが準備しています。採血や処置などを行う際は、患者誤認予防のため患者さん本人または家族(施設職員)の方に名前と生年月日をお聞きし、本人確認と採血管の名前確認を一緒におこなって頂いています。

これからも、患者誤認予防と患者満足度を向上していきたいと思っています。今後ともご理解・ご協力のほどよろしくお願い致します。



第10回 市民公開講座を開催

医療福祉支援センター 正嶋 忠貴

令和7年11月15日(土)、安芸高田市民文化センターにて「第10回市民公開講座」を開催しました。当日は肌寒い天候にもかかわらず、101名の市民の皆さんに参加していただくことができました。

今回のテーマは「持続可能な地域医療と救急医療を目指して」とし、地域で活動中のマンドリンググループの演奏で華やかに開幕しました。講演は皮膚科副部長廣瀬佳和医師より、今話題となっている带状疱疹の症状の治療法や当院で行えるワクチン接種について、平川勝洋病院長より吉田総合病院のこれまでとこれから、そして安芸高田市消防本部の溝上辰弥氏から、メインテーマである救える命を守るための救急現場でのリアルな活動紹介についてそれぞれの立場でお話をいただきました。生活に直結する内容に来場者の皆さんは熱心に耳を傾けておられました。



講演後のアンケートからは、「带状疱疹ワクチンを打ちたい」、「持続可能な地域医療には吉田病院の健全な経営が不可欠、市民全体で考えていきたい」、「救急対応の状況を知ることができた」などの声をいただきました。

吉田総合病院は、これからも地域に必要とされる病院、地域の皆さんに愛される病院、そして市民の皆さん全員が安心して暮らせるまちづくりに貢献してまいります。

骨密度検査のおすすめ

健康管理課長 安東 明子

骨粗鬆症とは

骨密度は20歳ころをピークに、40歳代から徐々に低下していきます。特に女性の場合、閉経に伴って大幅に低下し骨粗鬆症のリスクが高まります。糖尿病や甲状腺の病気なども骨密度が低下する要因です。

骨粗鬆症は自覚症状がほとんどないまま進み、転倒やくしゃみなどのちょっとした衝撃でも骨折することがあります。場合によっては寝たきりや介護が必要な状態に陥るリスクもあります。

現在は、様々な治療薬があり骨密度の減少を抑えたり高めることも可能となってきました。

骨粗鬆症を早期発見・早期治療するうえで骨密度検査はとても大切です。

JA吉田総合病院 健康管理センターでは、人間ドックや健康診断のオプション検査としてDXA法(デキサ)による骨密度検査を実施しています。

DXA法は、2種類の異なるX線を用いて骨密度を高精度に測定する方法で、骨密度検査として広く標準的に用いられています。特に、骨粗鬆症による骨折が起きやすい腰椎(背骨)や大腿骨の付け根部分を明確に評価できるのが特徴です。

令和7年2月に導入した当院の骨密度測定装置はX線被ばく量もきわめて低く従来より短い検査時間で測定できます。

加入されている健康保険によっては検査費用の一部助成がありますのでお気軽にお問い合わせください。

骨折のリスクを減らして健康寿命を延ばすためにも、ぜひ骨密度検査を受けてみませんか。



透析室での小さな楽しみイベント ～果物で笑顔に～

透析室師長 武下 美保

人工腎透析センターでは、20年以上前から管理栄養士と協力し、患者さんを対象とした調理実習を毎年行ってきました。新型コロナウイルス感染症の流行により、一時中止となりましたが、昨年より再開しています。しかし、患者さんの高齢化が進む中で、参加できる方が年々限られるようになってきました。

そこで今年度は、より多くの患者さんに参加していただけるよう、透析中の間食に変更し新たなイベントを企画しました。「果物と上手につきあおう」と題し、12月8日(月)・9日(火)の2日間で開催しました。医師より注意が必要な方や患者さんの希望のある方は持ち帰る方法としました。

透析を受けている患者さんの多くは、カリウムに注意が必要なため医師に相談し、実際に200mgのカリウムの量がどれくらいなのか目で見て理解できるよう、量や内容に配慮した旬の果物の盛り合わせを提供しました。当日は、りんご、柿、キウイ、ぶどう、オレンジ、いちごの6種類を詰め込んだ彩り豊かな盛り合わせを用意し、管理栄養士より1日に食べられるカリウムの量について説明を行いました。

患者さんからは、「200mgってこんなに食べられるんだね」「透析中に食べられてうれしかった」「おいしかったから毎月してほしい」など、多くのうれしい声が寄せられました。年に一度の「お楽しみの時間」を持っていただくことで、前向きな気持ちにつながればと考えています。

患者さんの笑顔に触れ、本企画を実施して良かったと心から感じました。今後も多職種と連携しながら、患者さんにとってより良い取り組みを続けていきたいと思ひます。

